

作業環境測定：留意点〔リスクアセスメント〕

環境・健康

厚生労働省の資料「化学物質・粉じん、騒音、暑熱に関するリスクアセスメントのすすめ方」などでは、作業環境測定を実施している場合のリスクの見積り手法として、作業環境の管理区分に基づくリスクの見積り（表.1）を示しています。

作業環境測定結果をリスクアセスメントなどで、ばく露の情報として利用する場合は、表2に示す作業環境測定の特性と留意点について配慮し、状況によっては作業環境測定を補完するための個人ばく露モニタリング等の測定を実施する必要があります。

表.1 管理区分とリスク

管理区分	リスク
第3管理区分	高（直ちに対応すべきリスクがある）
第2管理区分	中（速やかに対応すべきリスクがある）
第1管理区分	低（必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある）

表.2 作業環境測定の特性と留意点

特 性	留 意 点
作業環境濃度の測定	作業環境測定に反映されにくい局所的なばく露
定常作業時に測定	非定常作業時でのばく露 トラブル時の設備内立入時等のばく露 （作業環境測定の対象外作業時でのばく露）
測定の時間的制約	測定とタイミングが合わない間けつ作業などでのばく露
各測定点が固定	同一作業者の複数の作業場所での累積ばく露 発散源とともに移動する作業での過小評価
短時間作業	個人ばく露濃度に対し過大評価
保護具使用の効果	作業環境測定に反映されない

※ 令和3年4月1日から、個人サンプリング法による作業環境測定が一部の作業で先行導入されました。

kes サポート

課 題	k e s サポート
体外ばく露の情報	作業環境測定 （作業環境の管理区分）
体外ばく露量の把握	個人ばく露モニタリング （時間加重平均濃度の測定、経時的濃度の測定）
体内ばく露量の把握	生物学的ばく露モニタリング （生体試料中有害物質・代謝物等の測定）